

# 高知大学医学部医学科同窓会会報

# やまもも

高知大学医学部医学科同窓会  
会長 廣瀬 大祐  
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮  
TEL:088(866)0034  
FAX:088(866)0065  
[dosokaij@kochi-u.ac.jp](mailto:dosokaij@kochi-u.ac.jp)  
<http://www.kochi-ms.jp>

## 第33号

### 高知大学医学部医学科同窓会総会報告

令和3年8月7日(土)、ホテル日航高知旭ロイヤルにて高知大学医学部同窓会総会を新型コロナウイルス感染拡大防止のため、広い会場で間隔をあけ規模を大幅に縮小し行うとともに、オンラインを併用し開催いたしました。ご参加をご検討いただいていた会員様にはご迷惑をおかけすることとなり大変申し訳ございません。

議題については、令和2年度会計報告及び令和3年度事業計画(案)の審議を行いました。監査報告では、岡本啓一監事(1期生)、前田明彦監事(6期生)より、会計監査の結果、適正に処理されていることの報告後、異議なく承認となりました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、様々な社会的活動の自粛や制約を設けられてますが、感染症の一日も早い収束を祈念するばかりです。なお、**来年度の同窓会総会は、令和4年8月(日時は未定)にホテル日航高知旭ロイヤルで開催を予定しております。**

本年度と昨年度の総会は、感染拡大により総会の規模が縮小となり、第7期生(平成2年卒業)、第17期生(平成12年卒業)と第8期生(平成3年卒業)、第18期生(平成13年卒業)及び第9期生(平成4年卒業)、第19期生(平成14年卒業)が対象となります。

会員の皆様、同窓会総会・懇親会に集まりましょう。

会報(やまもも)へのご寄稿を心よりお待ちしております。

ホームページID kms パスワード yamamomo になります。

会員皆様およびご家族が、日々安全に過ごされますよう、心よりお祈りいたします。

《会長挨拶》

## 大学の歴史・同窓会のこれから

高知大学医学部医学科同窓会

会長 廣瀬 大祐 平成元年(第6期)卒

高知医科大学は昭和53年(1978年)4月に1期生を迎え入れ、昭和56年(1981年)10月19日附属病院での診療を開始しました。開学20周年にあたる平成10年(1998年)看護学部が新設されました。その後、平成15年(2003年)10月に(旧)高知大学と統合され、(新)高知大学医学部となりました。

高知医科大学出身としては、本年2021年が開院40周年にあたり祝賀会を開催したいと考えましたが、コロナ禍でかないませんでした。

高知大学全体としては2022年～2024年を(旧)高知大学創立75周年記念事業期間として様々な取り組みが企画されています。2022年は旧制高知高校100周年、2023年は高知医科大学と(旧)高知大学の統合20周年、2023年は(旧)高知大学創立75周年になります。

現在、記念イベント部会、歴史アーカイブ・地域創生研究プロジェクト部会、校友会設置部会、財務部会と組織が立ち上がったところですが、2022年には校友会設置が予定されていますので、今後色々な情報を大学および同窓会から発信していかなければなりません。逐次皆様に報告していきますので、ご意見をお寄せください。

高知医科大学1期生は昭和59年(1984年)3月に卒業されておりますので、まもなく同窓卒業生も40期を迎えるようになります。同窓会も次世代にバトンタッチできるよう活動を行なっていかなければならないと考えていますので皆様のご協力よろしくお願いいたします。



## 南国土佐を後にしてからの軌跡

がん研有明病院 上部消化管内科 胃担当部長

平澤 俊明 平成11年(第16期)卒

南国土佐を後にして、東京へ来てから22年。高知とは縁遠くなってしまい、「やまもも」の行方不明者名簿に名を連ねたこともあった。平素の疎遠をお詫びするとともに、卒業後歩んできた道を報告したい。

私が卒業した1999年当時、卒後は医局に所属することが医師としての王道であった。「市中病院でスーパー・ローテーションの研修を受けたい」と言う私に、「医局に所属しないと、ろくな医者にならない」、「一匹狼の医師になるぞ」と否定的な言葉が返ってくることは多かった。それでも、卒後すぐに一般病院で臨床をバリバリやりたいという気持ちは強く、初期研修に力を入れていた聖路加国際病院での研修を考えた。3次救急、緩和ケアの研修ができることも魅力的であった。とはいっても、当時の聖路加では、内科の初期研修の倍率は8倍。しかも、6年生の夏休みに1週間の見学が必須だが、その見学は推薦がないと受け付けてくれない。当時サッカー部の顧問で、聖路加OBでもあった老年病科の土居義典教授に口をきいてもらい、何とか見学の枠を手に入れた。見学では、割り振られたレジデントにコバンザメのように1日中ついて、そのハードな仕事を垣間見た。入職してから知ることになるが、この見学についてレジデントの評価が、採用試験に大きな影響力をもつのであった。幸いにも、サッカー部の久保亨先輩(現、高知大学老年病・循環器内科学講師)が聖路加の循環器でシニアレジデントとして働いており、そのおかげでレジデントの先生とすぐに打ち解けたのが高評価につながったようである。また実際の採用試験の面接でも、試験官から「久保がお前のこと、いいやつだって言っていたぞ!」というコメントをもらい、高知大学サッカー部のつながりで聖路加に入職することができた。

「病院からポケベルで呼ばれたら15分以内で帰ってこい」—聖路加での研修初日に言われた言葉である。その日からレジデントという名の通りほぼ病院に住み込み、365日、朝から晩までがむしゃらに働いた。当時の聖路加は、良くも悪くも体育会系の教育システム。辛いことも多かったが日々学ぶことがあり、医師として成長していく楽しさを感じた。一緒に苦楽を共にした研修医仲間とは今でも仲が良い。聖路加では毎日のように吐血や下血の患者さんが救急外来に運ばれてきていた。緊急内視鏡でクリップ止血を行うと、不安定な血圧が、瞬時に改善する。研修医の自分は、強い衝撃を受け、自分も高い技術をもつ内視鏡医になろうと決めた。

その後いくつかの病院を経て、2006年に内視鏡を勉強するため、がん研有明病院の消化器内科にレジデントとして入職した。そして、がん研で内視鏡のレベルの違いに驚くことになる。それなりに内視鏡を経験しており、上部消化管内視鏡なんて簡単だと考えていた。しかし、がん研ではそれまでに見たことのない胃炎類似型胃癌、微小胃癌、早期食道癌が次々と発見され、洗練さ

れた技術で治療されていた。がん研における胃癌の初診は年間で1000件を超え、全国トップの件数であるが、すべての症例がカンファレンスで議論される。レジデントはカンファレンス準備のため、夜中まで内視鏡画像と格闘しながら胃癌を勉強した。2年もすると他の病院の10年分以上にあたる症例を経験でき、胃癌診断の面白さ、奥の深さにのめり込んでいったのである。やがて自分がスタッフとして指導する立場になり、院内の若手向けに問題形式の症例集を作成するようになった。当時の部長が、それを見て月刊誌「臨床消化器内科」への連載と書籍の話を進めてくれ、2016年にはそれらをまとめて「通常内視鏡観察による早期胃癌の拾い上げと診断」という本にして出版した。これは従来にないタイプの臨床に則した書籍で、ベストセラーとなった。英語版も作成し、世界に日本の内視鏡診断の技術を発信した。院内向けの症例集はやがて、院外にも発信するようになり、その後口コミで全国に広がり、メールマガジン「内視鏡アトラス」として、若手から教授クラスまで全国の1600名を超える内視鏡医に毎週送っている。

がん研に来てからは、臨床研究にも力を入れている。2009年に未分化型胃癌の内視鏡治療の適応を拡大する研究を行った。この論文は世界で400以上引用され、胃癌治療ガイドラインの内視鏡治療の適応拡大の根拠となった。また胃カルチノイドの内視鏡治療の適応を検証するために多施設共同研究を企画・運営し、新たなエビデンスを示すことができた。がん研の外科と一緒に開発した、胃粘膜下腫瘍の新しい治療法であるLECS(Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery)は、保険収載され、低侵襲医療として世界的に普及した。最近ではAIを用いた内視鏡診断について研究、製品開発を行っている。2018年には世界で初めてAIを用いた胃癌診断の論文を発表し、現在はAI内視鏡の臨床導入に向けて、PMDAと折衝を繰り返している最中である。その他、がん研のブランディングチームとして「前方連携の構築」にも力を入れ、これを研究としてまとめた結果、日本医師会雑誌にも論文が掲載された。

ここのところもっぱら興味を持ち始めたのが「がん教育」だ。病院でがん患者を待っているだけでなく、がんの一次予防、二次予防を一般市民や中高生にわかりやすく伝えていくことも、がん専門病院の医師としての務めだと考えた結果、「がん教育」を普及させるシステムを構築中である。全国から講演等で呼ばれる機会も増えてきた。コロナ前には学会発表、講演が年間60回を越え、海外でのライブや講演にも呼ばれるようになった。学会会場で高知大学のOBから声をかけてもらおうと、懐かしく、そしてうれしく感じる。

この原稿を書くにあたり、これまでの医師人生を振り返れば、自分の興味が向くまま走り抜けてきた。フルマラソンに例えると、今は20kmあたりであろうか。後半失速しないように気を引き締めて、一步一步着実に前に進んでいきたい。



2019年下関海響マラソンにて。  
全員高知大学医学部のOBです。  
誰だかわかりますか？

## 《支援経費報告》

## 第56回日本小児腎臓病学会学術集会を主催して

高知大学医学部小児思春期医学 教授

藤枝 幹也(高知医科大学1期生)

去る2021年7月9日(金)～10日(土)に高知市文化プラザかるぼーとで第56回日本小児腎臓病学会学術集会を主催させていただきました。高知大学医学部同窓会(同窓会)からは多大なご支援をいただきましたこと、篤く御礼申し上げます。

開催時期は通常、5月～6月なのですが、約2年前から確認されいまだ収束が見えないCOVID-19流行中での開催であること、オリンピックが開催されると人流が増加し感染が拡大することが想像されること、前回大会が延期で本年1月にWeb開催であったこと、などを考慮してこの時期に行いました。現地開催にこだわっていましたが、叶わずハイブリッド開催(ライブ配信+オンデマンド配信)となりました。振り返ってみると、比較的患者数の少ない第5波が来る直前の絶妙な時期であったと思います。運営会社の徹底した衛生管理(ソーシャルディスタンス確保、体温測定、手指消毒薬配置、アクリル板設置、発表ごとのマイクの消毒、定期的換気など)のお蔭でクラスターを起こすことなく集会を終えることができました。最終的には過去の集会通りの約600人の参加をいただき、現地には日本全国から約100人出席してくださいました。

学術集会のテーマは「小児腎臓病医療学の進歩と普遍性」としました。小児腎臓病学の診療と基礎実験の進歩の確認と問題点・今後解決すべき点を明らかにすることが一つの主題(テーマの進歩)です。もう一点は、今日の日本で問題になっている低出生体重児(出生体重1,500g未満)の件です。周産期医療の進歩により低出生体重児や早産(妊娠35週以前)の児の命が救われるようになり、近年の日本新生児死亡率の低さは世界1～2位を保っています。このことは素晴らしい事実ですが、種々の要因で低出生体重児の生まれる割合が先進国の中でも群を抜いて多いことが認められています。低出生体重児は、若年成人という人生の早い時期に高血圧や耐糖能異常を呈する割合が多い、ネフロン数が少なく慢性腎臓病(CKD)になりやすく腎不全に陥る割合が増加するなど指摘されています。小児腎臓病学会のご尽力で、CKD早期発見と健康教育を目的として、先進国では日本だけの誇りう





る制度で、今日では3歳児検診時に検尿を行い、小学生から中学生（高校生も）で学校検尿が行われています。これらの検診・検尿を通して、新生児期から成人期までを小児腎臓病医が関り、さらに腎臓内科医と連携して、成人病の予防に貢献してもらいたいと希望しています。加えて腎泌尿器疾患以外の他疾患でも治療（抗ガン薬含む）などにより腎障害を併発することが認められているため、この分野でも小児腎臓病医が積極的に関与してほしいと思います。以上の考えからもう一つのフレーズに普遍性という言葉を掲げました。

前述のテーマをもとに、特別講演では、医療を行う上で必須である医療安全（岡山大学 塚原宏一先生）と医療倫理（三重大学 兼児敏浩先生）についての講演を行っていただきました。シンポジウムは、「日本小児腎臓病学会の事業継続計画」と「感染症と免疫抑制薬・生物学的」について行い、ワークショップでは、「他領域との連携」と「ANCA 関連腎炎の最新の知見」について行いました。すべての講演で会場だけでなく Web での質問も多数あり、活発で充実した内容でした。教育講演は COVID-19 の最新治験（小児領域での問題点、成人 CKD 患者での問題点）を含む全 9 講演を行い、COVID-19 への関心の高さが伺えましたし、各教育講演も時間が足りないくらいホットディスカッションでした。さらに基調講演として中西浩一理事長に「腎臓病研究の現状と展望」ということで今後の学会の進むべき道を示していただきました。招聘講演は少し雰囲気をかえて海洋コアセンターの池原実先生に深海科学の採掘の歴史と未来を講演していただきました。太古の深海の土のなかに生物が生きのまま（冬眠状態）存在していたと伺い、生命の神秘を感じるだけでなく今後の医療に役に立つことが発見できるのではないかと非常に興味深い内容でした。

懇親会で、久しぶりに全国の先生方と語らいたいと思いましたが叶わず、全国の先生方は自宅やホテルから参加していただく Web 懇談会を約 1 時間行いました。夜 8 時の開始にもかかわらず約 60 名の方に参加していただきました。飽きることはないようにプログラムを事務局（当小児科の石原正行先生と長尾佳樹先生）はじめ医局員が考えてくれ、主要人物からコメントをいただき、随時、高知特産品のコマーシャルとご当地クイズをいれ、医局員（森下祐介先生）が高知の名所（は

りまや橋と高知城)の実況中継をいれてくれました。参加者から飛び込みコメントもいただき、とても良い企画であったと自画自賛しています。

今回、学術集会をハイブリッドで行い感じたことです。高知県内の公共施設やホテルは装備がまだ追いついていないため、Web配信のための費用がかさむことです。Web配信のみと比較してハイブリッド開催は約1.3～1.5倍くらいに総額が上昇しました。一方、良いこともあり、オンデマンド配信があるため、現地開催および当日開催のみよりも参加者総数が増加することです。

今回、無事開催できましたのは、同窓会、高知大学医学部小児思春期医学の医局員、研修医、事務員および同門会の先生方、個人的な関りからご援助いただいたすべての方々のお蔭と深謝申し上げます。本来なら拝眉の上、お礼申し上げる所、紙面での非礼をお許しください。すべての方々のご援助とご尽力に対しまして重ねて御礼申し上げます。

末筆になりましたが、皆様のご健勝と益々のご発展を祈念してお礼の言葉とさせていただきます。



# 高知大学病院再開発の概要

## ■ 第一病棟を診療管理部門へ改修

既存第一病棟(西) → 診療管理部門棟に部分改修  
既設第一病棟(西)一部取り壊し : 555㎡

第一病棟 → 診療管理部門棟として有効活用する

診療管理部門・センターを配置

- ◇ 需要(ニーズ)が変わり診療管理部門が近年特に増加、拡張が顕著に表れ病院全体で約35部門となっている。旧病棟を診療管理部門棟に転用し有効活用を図り増収に繋げる。
- ◇ がん治療センターの下、がん相談支援センター、外来化学療法室(14床→21床)、緩和ケアセンターなどを一元管理してがん拠点病院としての病院機能を強化し増収を図る。
- ◇ 第一病棟はインフラを主とした改修を行う。

## ■ 外来診療棟改修

既設外来診療棟は全面改修

診療の効率化、患者アメニティの向上、  
待ち時間の負担軽減を図る

- ◇ 外来診療科間の診察室・待合室の共用をおこない、増築無しでトータルコスト削減と機能強化を行うと共に患者の待ち時間を短くする。
- ◇ 診察室・処置室を増設し機能的な配置にすると共に近年の医療ニーズにあった諸室を整備し診療時間の短縮を図る。
- ◇ 診察室などは患者さんのプライバシーを考慮した機能的な配置とし安全・安心な診察ができる。

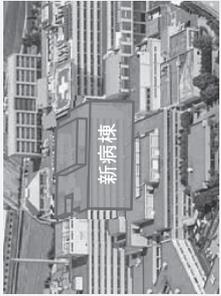


診察室が狭い(隣の診察室とはカーテンで仕切っている)



廊下に溢れる患者さん

## ■ 新病棟建設



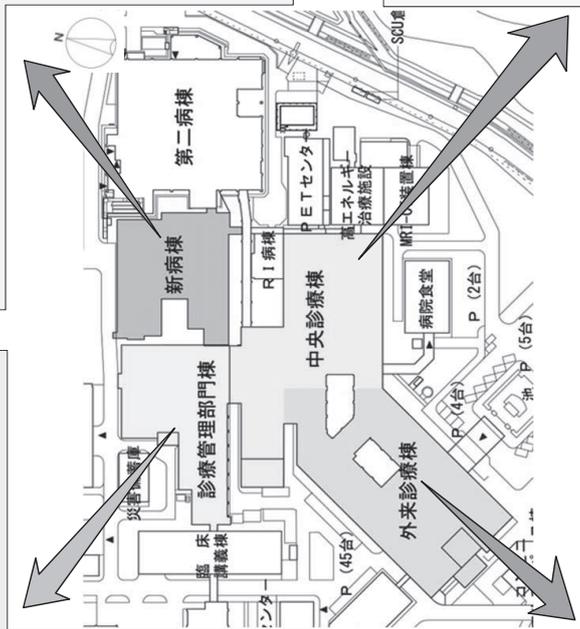
新病棟

新病棟建設 : 地上9階、免震構造  
延床面積 : 18,668㎡、349床

既設第一病棟(東)取り壊し : 6,890㎡

国土強靱化基本計画による  
免震構造の病棟建設

- ◇ 各診療科の病床数を見直し地域医療、病院収入増を考慮した病床配分とする。
- ◇ 病床個室率を35%を目指し患者の要望に応えようと共に、個室と4床室のバランスを取り病床稼働率を上げる。
- ◇ 附属病院開院後39年経て医療進歩に沿った面積がない等によりサービスマン・ソフト面においての陳腐化を解消する。
- ◇ 透新の病床を6床から10床に増床し収入増を図る。



## ■ 中央診療棟改修

既設中央診療棟1、2階は一部改修、3階は全面改修  
(リハビリテーション部など)

先端医療に対応した投資的な改修

- ◇ リハビリテーション部は当初より患者依頼件数が5.8倍と増加、急性期医療を徹底するため拡充整備し早期退院に向かわせる。
- ◇ 内視鏡診療部を拡充整備し予防医学の充実・強化において早期発見・早期治療の機能強化を図る。

## 工程表

工事内容	(年度)									
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	
中央診療棟一部改修										
第一病棟(東)とりこわし										
新病棟建設										
第一病棟(西)一部改修										
第一病棟(西)改修										
中央診療棟改修										
外来診療棟改修										

## 《事務局からのお知らせ》

### 会費納入のお願い

同窓会会費は終身会費で5万円です。未納の方は下記口座への納入をお願いします。

#### 【郵便局からのお振込み】

口座番号:01680-2-130874 高知大学医学部医学科同窓会

#### 【他銀行からのお振込み】

店名 : 一六九店 預金種目 : 当座

口座番号 : 0130874 高知大学医学部医学科同窓会

### 医師賠償保険団体加入のお知らせ

医学科同窓会で勤務医師賠償責任保険を団体扱いで損保ジャパンと契約しています。令和2年度実績として、約250名の加入者があり、保険料について団体割引15%の適用を受けております。詳細につきましては、下記取扱代理店までご連絡ください。

【取扱代理店】 はらだ保険企画 〒780-0063 高知市昭和町10番5号  
TEL : 088-823-7152 携帯 : 090-1007-8339  
E-mail : harada\_hokenkikaku@yahoo.co.jp

### 【同窓会事務局連絡先】

高知大学医学部医学科同窓会事務局  
〒783-8505 南国市岡豊町小蓮  
同窓会事務局 明神 一夫  
TEL : 088-866-0034 FAX : 088-866-0065  
メール : [dosokaij@kochi-u.ac.jp](mailto:dosokaij@kochi-u.ac.jp)

※勤務先や自宅などが変更となった場合は、同窓会事務局まで本用紙でご連絡をお願いいたします。

送付先：高知大学医学部医学科同窓会事務局 行

FAX：088-866-0065

メール：[dosokaij@kochi-u.ac.jp](mailto:dosokaij@kochi-u.ac.jp)

ご氏名	会員番号	S・H	年卒業
勤務先名			
勤務先住所	〒	TEL	
自宅住所	〒	TEL	
その他連絡先 (実家など)	〒	TEL	
メールアドレス			
【ご意見等】			